

強度行動障害の理解 I

- ・ 支援の基本的考え方
- ・ 強度行動障害の状態
- ・ 行動障害が起きる理由

社会福祉法人 嬉泉

法人本部 経営企画室

地域連携担当 北川 裕

本題に入る前に・・・

- 強度行動障害支援者養成研修で学ぶこと

研修のストーリー & 到達点

ストーリー	基礎研修	実践研修
Step 1	強度行動障害について基本的なことを知る	支援を組み立てるための基本的な流れの確認
Step 2	アセスメントに基づいた（情報を収集し、解決すべき課題を整理した上での）個別支援の大切さを理解する	アセスメントの具体的な方法を学ぶ
Step 3	支援の具体的な方法を知る	支援手順書の作成方法を学ぶ
Step 4	チームプレイの重要性を理解する	記録の方法と支援手順書の修正方法を学ぶ
Step 5	適切な支援を続けていくための知識を得る	組織として取り組むことの重要性を学ぶ



到達点	計画された支援の根拠を理解し、決められた手順通りに支援をすることができる。	チームの動きをイメージし、支援の手順を考え文章化する。 また、支援結果に合わせ、支援及び手順の修正をすることができる。
-----	---------------------------------------	--

研修のストーリー & 到達点

ストーリー	基礎研修
Step 1	強度行動障害について基本的なことを知る
Step 2	アセスメントに基づいた（情報を収集し、解決すべき課題を整理した上で）個別支援の大切さを理解する
Step 3	支援の具体的な方法を知る
Step 4	チームプレイの重要性を理解する
Step 5	適切な支援を続けていくための知識を得る



到達点	計画された支援の根拠を理解し、 決められた手順通りに支援をすることができる。
-----	---

この時間で学ぶこと

- 強度行動障害の状態になぜなるのかを学びます。
そして、**予防**の重要性、**軽減**の方法の基本的な考え方を学びます。
- 強度行動障害支援の最終目標は行動障害の軽減ではなく、強度行動障害の状態になっている人、なりやすい人が、**地域のなかで安心して幸せに生活すること**だということを確認します。

この時間で学ぶこと

- ①支援の基本
- ②強度行動障害とは
- ③なぜ強度行動障害という状態になるのか
- ④児童期の予防の大切さ
- ⑤まとめ：強度行動障害と社会参加

講義 ・ 動画視聴



①支援の基本

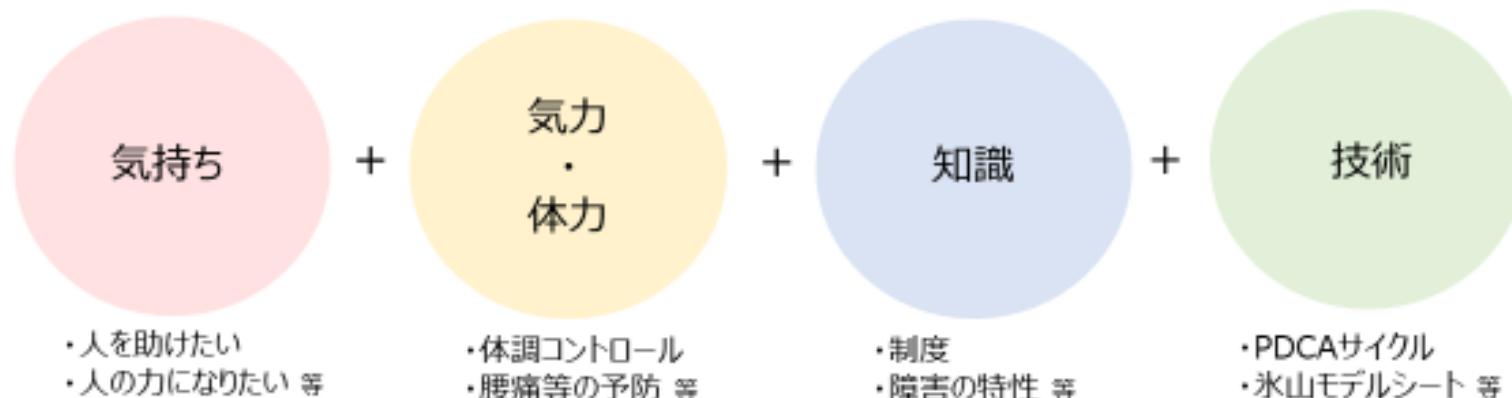
支援とは

他人を支えたすけること



出典：三省堂大辞林第三版

支援の専門家が、支援を提供する際に必要なもの



基礎的な支援の流れ



氷山モデルシート

課題となっている行動

本人の特性

環境・状況

必要なサポート

支援手順書（例）

支援手順書/記録用紙

日付け	20〇〇年〇月×日	氏名	Tさん	記入者	支援員B
工程	本人の動き	支援者の動き・留意点		本人の様子(記録)	
事前準備		スケジュールに活動カードをセット。 お茶をカバンに入れる。			
スケジュール確認	出発前に支援者と一緒にスケジュール確認	Tさんに見えるようにスケジュールを示し、活動カードを1つ1つ指差して予定を最後まで確認する。 最後まで確認できたらカバンを渡して出発するように促す。			
散歩	公園に向かって歩く	Tさんの横を歩き、通行人や車をぶつからない様に注意する。 ぶつかりそうな時はTさんの前に出てジェスチャーで止まる様に促す。 公園に近づく走り出すことがあるので、横断歩道の前で本人の前に出て身体の前へ手を出すジェスチャーで止まる様に促し、支援者が安全確認する。			
公園	公園の入り口でスケジュール確認 ブランコで遊ぶ お茶を飲む	公園の入り口でスケジュール確認(活動カードを外す)。 ブランコに移動、本人が満足するまで遊んでもらう。 満足して動き出したら、次のスケジュールを示しベンチに移動。 ベンチでスケジュール確認(活動カードを外す)、お茶を飲む。 終わったら次の活動を伝える。 *Tさんが水遊びを始めた時は、タイマーを3分にセットし、Tさんに見える様にセットし、「3分でおしまい」と声かけ。 タイマーがなったらTさんが水道を止めるので、次の活動を促す。			
外食	飲食店に行き食事をする	お店の前で走り出すことがあるので、本人の前に出てジェスチャーで止まってもらい支援者が安全確認。 店の前でスケジュール確認(活動カードを外す)。 メニュー表を見せると、食べたいものを指差すので、支援者が注文、購入する。 食事は見守りする。 食べ終わったら次の予定を伝える。			
帰宅	自宅に戻る	スケジュール確認(活動カードを外す)。 家族にTさんの様子を伝える。			

* スケジュール確認の手順

- ・スケジュールカードを指差し、次の活動を単語で伝える
- ・活動場所に着くとカードを外しポケットに入れる
- ・次の活動を伝える際はスケジュールカードを指差し、単語で伝える

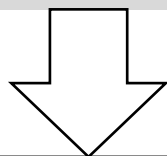
* 本人と関わる際の注意点

- ・声かけは最小限にする(声かけが多くなると混乱しやすいため)
- ・公園やお店の近くでは目的に向かって急に走り出すことあり
- ・事前にジェスチャーで止まる様に促し支援者が安全確認する

②強度行動障害とは

「強度行動障害」とは

自傷、他傷、こだわり、ものの壊し、睡眠の乱れ、異食、多動など本人や周囲の人のくらしに影響を及ぼす行動が、著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている状態を意味する用語



- × もともとの障害
- その人の状態のこと

③なぜ強度行動障害という状態になるのか

あるショッピングモールでの出来事 困っているのは誰か？



Aさん
自閉スペクトラム症
突然Bさんを押した

Bさん
たまたま通りがかりAさんに押された



Cさん
Aさんを連れてきたスタッフ

BさんとCさんが困っています

通りすがりのBさんを
押したのはいけないこと



でも・・・
もしかすると？

Aさんも困ってる？

何か嫌なことがあった？
何か言いたいことがあった？
何か気づいてほしかった？



実は、Aさんも困っています

うるさいのがきらい

見通しが分からない

話し言葉で
コミュニケーションができない



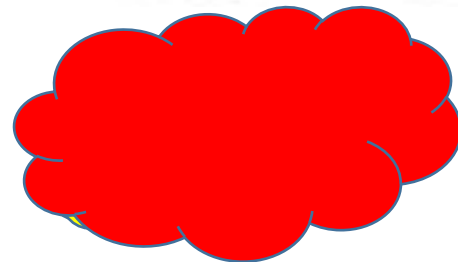
ショッピングモールにいてだけで

不安・不快・緊張

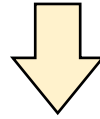
押す

=

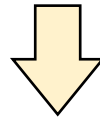
気持ちが表れた行動



やむにやまれぬ気持ちで自分なりに行動する



- ・ 状況が好転すると同様の行動を繰り返す。
- ・ 好転しない、伝わらないと、さらに激しい行動になる。



強度行動障害の状態



やむにやまれぬ行動が生じ、強度化していく流れを
学習や支援関係の構築の側面から見てみると・・・

当事者は、

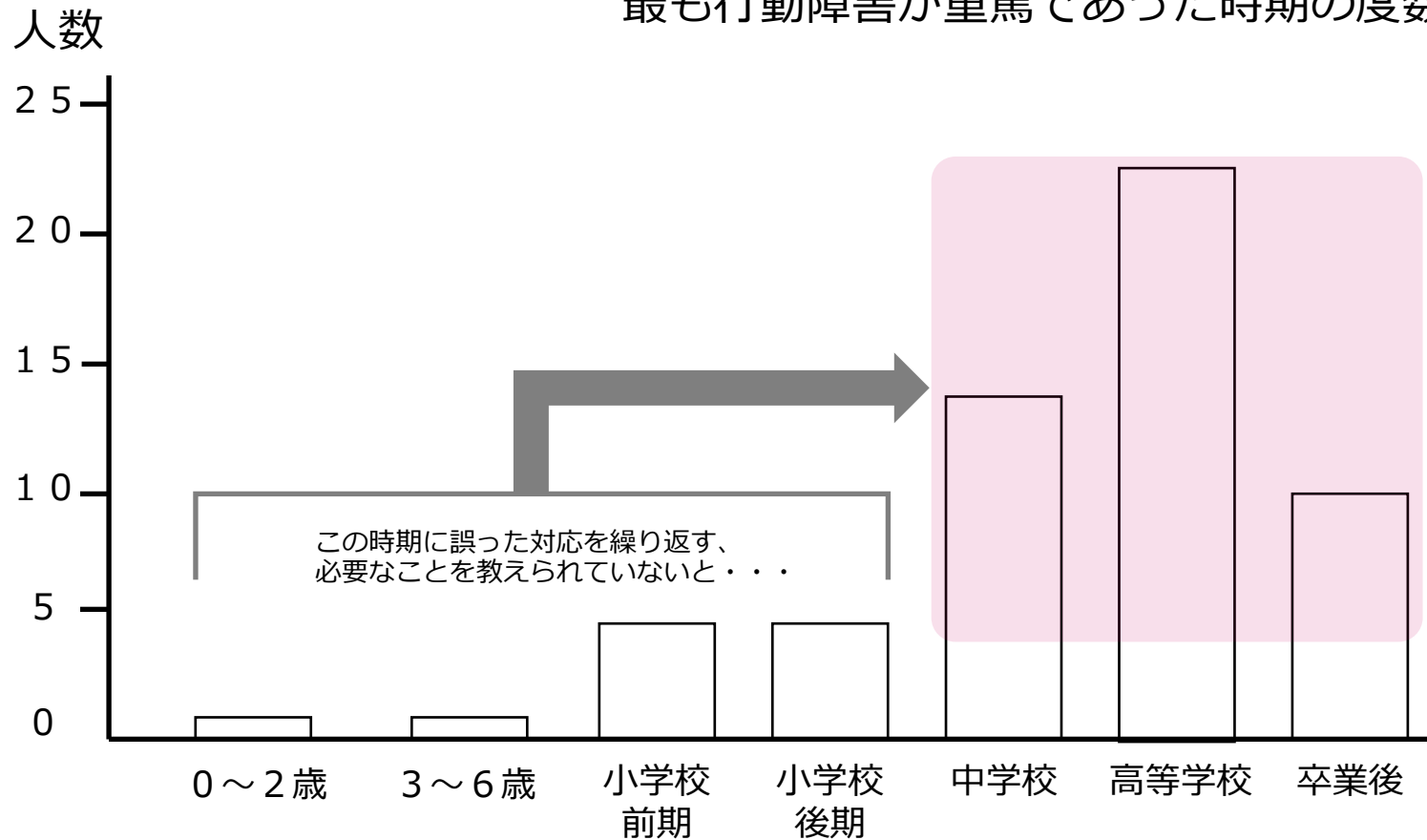
- たまたま学んだ対処法を繰り返すしかない
- 適切な行動や対処法や伝え方を学ぶ機会がない

支援者は、

- 適切な行動を教えていない
- 苦手や得意を分かっていない
- 支援できる関係を作れていない

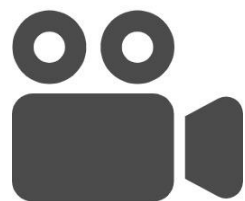
④児童期の予防の大切さ

最も行動障害が重篤であった時期の度数分布



厚生労働省平成24年度障害者総合福祉推進事業「強度行動障害の評価基準等に関する調査について」報告書
社会福祉法人全日本手をつなぐ育成会

だから、幼児期・児童期の適切な関わり（例えば、本人に合った学び方でコミュニケーション方法を身につけることなど）が重要



動画を視聴します

過去に、強度行動障害の状態になったことのある鈴木さん（仮名）のお話

⑤まとめ：強度行動障害と社会参加

—誰もが幸せに生きていくことができる社会に—

適切な支援がない場合

行動障害が現れやすい人



「苦手な刺激」「分からない」「伝わらない」が多い



適切な行動ができにくい



やむにやまれず行動で気持ちを表す = (強度) 行動障害



社会参加が難しくなりやすい

適切な支援がある場合

行動障害が現れやすい人



本人の特性に合わせて特別に配慮された環境・支援



「苦痛の軽減・解消」 「分かる」 「伝わる」



適切な行動 充実した活動 安定した生活



社会参加が進む

強度行動障害の状態にある人や子どもは、
「困った人」「困った子」ではなく、
「困っている人」「困っている子」
＝合理的な配慮が必要な人

私たち支援者は、
特性への理解、配慮、支援をすることによって、
強度行動障害の予防や軽減ができ、
彼らの生活の質の向上、
社会参加を進めることができる。

支援とは

他人を支えたすけること



出典：三省堂大辞林第三版

障害と支援

医学モデルの考え方では・・・

疾病や障害は治療やリハビリの対象

社会モデルの考え方では・・・

疾病や障害があることで権利や参加の機会が阻害されることが障害

I C F（国際生活機能分類）の考え方では・・・

疾病や障害は人間全体の一部である。個別性をとらえ、支援の効果も相互作用や全体として捉えるべき

強度行動障害支援とは、

強度行動障害が現れやすい人たちの、
個々の特性を理解し、配慮し、安全
安心安定した暮らしを送れるように
助け、より良い暮らし、幸せを支え
ること。